

平成24年8月 岡山市教育委員会定例会 会議録

1 開催日	平成24年8月28日 (火曜日)		
2 開会及び閉会	開会	14時00分	
	閉会	14時54分	
3 出席委員	委員長	柳原正文	
	委員	渡辺勝志	
	委員	塩田澄子	
	委員	曾田佳代子	
	委員(教育長)	山脇健	
4 会議出席者			
職名	氏名	職名	氏名
教育次長	水野博宣	教育次長	橋本拓治
統括審議監	鈴木康義	審議監(学校教育担当)	福島治子
審議監(生涯学習担当)	直本正明	教育企画総務課長	長瀬尚樹
教育企画総務課学校環境調整担当課長	樽家博志	教育企画総務課課長補佐	杉原光治
次長(人事財務課長)	佐々木辰昭	学校施設課長	佐々江一男
学事課長	山本孝治	就学課長	新井薫
指導課長	天野和弘	指導課教育支援担当課長	山崎克磨
指導課人権教育担当課長	福江建二	教育研究研修センター所長	堀井博
保健体育課長	三宅修司	保健体育課課長補佐	赤野政治
保健体育課課長補佐	泉利絵	生涯学習課長	丸川康一
中央図書館長	大塚利昭	次長(中央公民館長)	景山泰
文化財課長	乗岡実	次長(オリエント美術館長)	谷一尚
岡山後楽館事務長	重松浩二郎	スポーツ振興課主査	長江都
事務局(教育企画総務課課長補佐)	高木宏	事務局(教育企画総務課主査)	小西一郎
5 議題及び結果			
第22号議案	平成23年度岡山市教育委員会の事務に関する点検・評価報告書について 原案可決		
6 教育長等の報告	[平成24年7月14日(土)～平成24年8月17日(金)]		

7/14～8/10	子供海外派遣事業（事前研修・壮行会・見送り・出迎え等） 中国 洛陽市 7/21(土)～28(土) 台湾 新竹市 7/24(火)～31(火) 韓国 富川市 8/ 3(金)～10(金)	国際課(指導課)
7/14	リズム遊び	文化財課
7/15	大森遺跡発掘調査現地説明会	文化財課
7/16	婦人バレーボール大会	生涯学習課
7/21	埋蔵文化財講座遺跡が語る岡山の歴史第3回	文化財課
7/22	岡山市子ども会親善球技大会	生涯学習課
7/23	開かれた学校づくり教育講演会	生涯学習課
7/25～8/2	歯の衛生週間ポスター展示	保健体育課
7/30	韓国政府日本教職員招聘プログラム事前研修会	指導課
7/31～8/1	J E Tプログラム来日直後オリエンテーション	指導課
8/1, 7, 17	岡山市就学・教育相談会	指導課
8/1～8/3	災害ボランティア支援事業	指導課
8/2～8/8	やご救出作戦ポスター展示	保健体育課
8/3	全国作文教育研究大会	指導課
8/3～8/10	通学路合同点検	指導課
8/4～8/6	犬島探検隊	生涯学習課
8/7	平成24年度岡山市学童水泳記録会	保健体育課
8/17	チャレンジハートキャンプ（～23日）	生涯学習課
渡辺委員 教育支援担当課長	○ 岡山市就学・教育相談会は、どういう種類の相談が多かったのか。 ○ 3日間で約100名が来られたが、主に特別支援教育に関わる子どもの就学についていろんな情報を得たい、秋に向けて就学先を検討するうえで学校とか上級学校の様子を詳しく知りたいなどの相談が多かった。	
曾田委員	○ 子ども海外派遣事業の応募者数はどうだったのか。行き先は姉妹都市だが、アジアではいろんなことがあり、民間の交流団体ではキャンセルなどの動きがあるようだが。	
指導課長	○ 応募者数は国際課の事業なので詳細はわからない。今のところ行き先の変更等は聞いていない。	
曾田委員	○ 民間団体などの募集では、保護者の意向等で行き先を変えたりなどしているようなどころもあるが。	
指導課長	○ 姉妹都市ということなので、特に変更はない。	
委員長	○ この事業は毎年行っているのか。	
指導課長	○ そうである。	
曾田委員	○ 姉妹都市もたくさんあるので、ローテーションで行っているのかどうか。	
教育長	○ 中国、台湾、韓国の3か所だけだ。何人かの生徒はサンノゼへ行っている。	
曾田委員	○ あまり遠いと日数も費用もかかる。費用はいくらか。	
橋本教育次長	○ 希望者はやや減少傾向にある。それぞれ行き先の希望をとっているが、韓国への希望が非常に高い。費用については、自己負担もあるが一部を市で補助している。	
曾田委員	○ 本市もどんどんこのような行事があれば良いと思う。	
渡辺委員	○ 参加者は女性が多いが。	
橋本教育次長	○ そう思った。そのときの様子も、一人ずつ返事をしてもらったが、女性が声が大きかった。一人男性で大きな声を出していて印象的だった。	
教育長	○ イングリッシュビレッジでも女性が多かった。	
塩田委員	○ 大学でも海外へ行くのは女子学生が圧倒的に多い。	
教育長	○ 部活動していると参加が難しい。スポーツ部で県大会まで駒を進めたりすると。	
委員長	○ この事業は中学生までか。	
橋本教育次長	○ 中学生が対象の事業だ。	
塩田委員	○ 犬島体験隊の展示会を覗いてきた。参加者89名、希望者は二百数十名で、参加者は非常に楽しそう過ごしていたが、第2弾をすとか参加者の枠を広げるなど来年への取り組みを教えて欲しい。	
生涯学習課長	○ 犬島探検隊が2泊3日、チャレンジハートキャンプが6泊7日の宿泊キャンプだが、どちらも毎年200人以上の応募があり、定員を超えているので抽選になっている。夏には行事が多く、もう1回というのは難しいが、イングリッシュビレッジも30人の定員に対して100人の応募があったように、宿泊を伴い、普段家庭や学校で体験ができない行事には、参加希望者が非常に多いので、できる	

	<p>だけ多くの方に参加してもらえるようにしていきたい。定員を増やすなどは検討していきたい。</p>
塩田委員	○ 一度参加した方は次回の参加を制限するなどしてみたらどうか。
生涯学習課長	○ 現在そのようにしている。
委員長	○ この事業も性差はあるのか。
生涯学習課	○ 犬島探検隊は、男子53名、女子36名。チャレンジハートキャンプは、男女30名ずつ。
曾田委員	○ 通学路合同点検の対象校58校というのは、希望する学校が手を挙げるのか、それとも市教委からの指定なのか。
教育支援担当課長	○ 手を挙げてもらっている。
曾田委員	○ 小・中あわせて58校か。
教育支援担当課長	○ そうであるが、ほとんどが小学校。
塩田委員	○ 実施は定期的なものか、昨今の交通事故等を受けてのものか。
教育支援担当課長	○ 京都府亀岡市の通学路事故や類する事故を受けて、国から安全点検をという指示があって実施した。
曾田委員	○ いつも安全点検はやっていると思うが、何か方法が変わったとか、違うスキルが使われたということはあるか。
教育支援担当課長	○ 学校と保護者、道路管理者である区役所や国道事務所、地元警察署と教育委員会が合同で点検した。今回の点検の中では、通学路の変更等の検討のきっかけになったということで、警察も区役所も積極的に参加してもらえた。
曾田委員	○ 道路管理者が同行すると、スピード制限もできるかもしれない。一方通行の指定など、今までのように地元の人だけでは洗い出しで終わることもある。今回のことはよかったと思う。
委員長	○ 災害ボランティア支援事業では、期待した効果はあったのか。
人権教育担当課長	○ 7名の生徒会役員、引率教諭、指導課担当職員が被災地に行った。子どもたちは今、報告集をまとめているところである。その途中の段階のものをを見せてもらったが、実際に災害の現場を目の当たりにして、非常に子供たちの心が揺れているというか、響いているという感じがした。いろんな方との出会いがあって、その出会いがまた子供たちの貴重な経験になっていると感じた。9月に第1回目の校内報告会を予定している。報告資料を作っているのだから、何らかの形で他の学校にも広めていきたい。

7 議 事 の 大 要

委員長	○ 8月定例岡山市教育委員会を開催する。
委員長	○ 本日の傍聴希望者は1名いる。傍聴を許可してよいか。
全委員	○ <承認>
委員長	○ 傍聴を認める。
委員長	○ 日程第1、会期は本日1日限りとしてよいか。
全委員	○ <承認>
委員長	○ 日程第2、7月定例会及び8月臨時会の議事録に問題はないか。
全委員	○ <承認>
委員長	○ 日程第3、教育長等の報告、事業報告について質問はないか。 (会議録6「教育長等の報告」に記載)
委員長	○ 議事に入る前に会議の公開・非公開について諮る。日程第4の第23号議案は、会議を公開することにより教育行政の公正かつ円滑な運営に著しい支障が生ずるおそれのある事項として会議規則第9条第1項第6号に該当する、第24号議案は、任免、賞罰等職員の身分取扱いその他人事に関する事項として会議規則第9条第1項第1号に該当するため非公開としてよいか。
全委員	○ <承認>
委員長	○ それでは先の議題は非公開とする。
委員長	○ 日程第4、第22号議案を説明願う。
教育企画総務課長	○ 説明(議案第22号の資料に沿って説明)
委員長	○ 質問、意見はないか。
委員長	○ 平成20年度からで4回目になるが、年々中身は充実してきていると思うが。
塩田委員	○ 10ページに達成状況が書かれているが、新規事業については年度目標を定めるのがとても難しいと思う。「中学校区ではぐぐむ!学力アップ事業」は95%で、達成状況が95%と第1回目達成できている。「岡山っ子スタートサポー

	ト事業」は、「授業がわかりやすく楽しい」と答えた子どもの割合が83%という目標で、そう答えた子どもが81.6%になっている。この達成率はどのくらいの達成率なのか。一生懸命やってなのか、初めてのことなので、この81.6%をどういうふうに評価されるのか。これを読んだだけでは、伝わってこなかったのだが。
教育企画総務課長	○ 習熟度別サポート事業でも同じ指標を用いている。一つの指標で授業が分かりやすくなったということはなかなか実感しづらいということで、複数の事業をまとめる成果指標として用いている。これは平成17年ぐらいからやっているが、数百人が動かないと1%というのは上がらないので、なぜ83%という目標をもったかという、それぐらいは達成したいということで始まっており、根拠性を問われると苦しいところがある。なかなか思うように上がっていないのが現状である。
塩田委員	○ 根拠を定めたときに、経年変化はあると思う。続けていて、そこを改善して新たな事業を立ち上げたとしても経年変化はあると思う。これが4回目であるならば、昨年より実は1つ事業を加えたからパーセンテージがアップしている、達成率がちょっとよかったなど、事務局側の感触はどうだったのか。
学事課長	○ 「岡岡っ子スタートサポート事業」は、平成22年度までは県教委が「小1グッドスタート事業」で県の費用で行っている事業だったが、23年度からは10月までで打ち切るということになったので、11・12月は市単独で補充を行い、市の事業として延長する格好で行ったもの。したがって、全く新規にゼロから始めたということではなく、補完する形で行ったものになる。「習熟度別サポート事業」は、平成21年度から行っているが、一つの事業で成果指標がどのぐらい上がったかというのではなく、ここでは授業がわかりやすいということで当初に目標設定しているの、そちらの方で業務ごとに達成状況を入れている。
塩田委員	○ 達成状況が、例えばABCDEの5段階だったら、AなのかBなのか、その辺がわかりづらい感じを受けた。それと95%の目標で95%達成している場合は、達成度はAランクになるのか、いやもう少し目標を上を設定できたのかもしれないとか、その当たりをどう判断したらよいのか感じたので。
委員長 曾田委員	○ 次年度以降の課題として取り組んでもらいたい。 ○ 年度目標、執行状況、進捗状況など目標にいろんな数値がある。さらには重点シートには指標がある。その年度目標はアウトプットの目標にするとか、こっちはアウトカムの指標にするなど何か共通点は考えているのか。それともそれぞれの事業で年度目標を決めているのか。
教育企画総務課長	○ 当初はやはり事業に対する1対1の指標を想定していたが、振興計画を考えていく流れの中で、施策の評価を有効にみるために、施策単位の成果指標が必要であろうとなった。ここの事業の部分は指摘のあったようにアウトプットを中心にしていく必要があり、現在精査しているところである。
曾田委員	○ 来年度、費用対効果も考えながらということなので、施策間の位置関係をということで目標も変わってくるのではないかと思うが、この目標を中心にしながら施策がバラバラしているのが、統合されて目標に近づけばわかりやすいし効果があると思う。
渡辺委員	○ 長期欠席児童とか不登校とか、今日の新聞でよくない記事も出ていたが、14ページの「子どもの自立を応援！学校適応支援事業」で23年度の不登校出現率は集計中となっている。新聞ではいろいろデータが出ていたが、今度提出する時には具体的な数値を入れるのか。
委員長	○ 市民文教委員会に出す段階では、マスコミに公表されているので入れないとおかしいのではないかと。
教育企画総務課長 渡辺委員	○ 入れる方向で考える。 ○ データがあまりよくなかったが、それを踏まえて何かさらにつけ足すとか、今後の課題とか、「ストップ・ザ学校問題」は本年度からだが、ここでさらに入れたりするのか。
教育企画総務課長	○ これら自身が昨年度のものなので、これを受けてここでの改善というのは、もう既に24年度が始まっているので難しい。委員指摘の「ストップ・ザ学校問題」は、その成果を年度末に見ようとしている。ややずれているので、そのタイムラグにもどかしさはあるが、今やっている事業の中でできるところで改善を図っていく。
委員長	○ 昨年も話題になったが、前年度の集計を踏まえて報告しているが、実際は当該年度の事業はもう進行している。進行している中で、昨年度の結果というのは後出しのようになるが、これはやはりどうにもならないのか。集計値を概数で処理して、報告書を早く出すことは難しいか。なんとなく、市民の眼から見ると、点

	<p>検評価の報告があつての、次の計画というふうに見えなく、何か説明が必要になってくるのではないかと。</p>
教育企画総務課長	<p>○ 現在のところ、岡山市は会計年度の出納閉鎖を待って、各課からの資料をまとめ、教育委員会で検討していただき、議会へ提出することになるので、こういう時期になる。今提案いただいた概数、速報値のようなもので処理できないかということは少し検討させていただく。6月議会で可能になるかということは、今後探っていきたいと思う。</p>
曾田委員	<p>○ 学校基本調査は、政令市は政令市であるのか。それとも県なのか。</p>
教育企画総務課長	<p>○ 政令市も県へ報告している。</p>
曾田委員	<p>○ いろんな都道府県が基本調査の項目を速報値で出している。いろんなデータが出ている。いじめ・不登校に関わるものもあるのか。</p>
委員長	<p>○ 不登校は、長期欠席者の数値がある。</p>
曾田委員	<p>○ 5月1日より前、2月ぐらいにホームページに概略版を出している都道府県が多い。例えばそういうところで、今言われたこととそのものが合致するかどうかわからないが、最近説明責任的に5月1日を待たないで、文部科学省の発表前に概数を出しているところがあるので確認してみたい。</p>
委員長	<p>○ 無理もないことは、内部の人間からはよくわかるが、外から見たら、23年度の報告を受けて、25年度の予算申請をするように見える。間の年度がすっぱり落ちてしまう。</p>
塩田委員	<p>○ 今後の課題というのは、結構早い段階で把握していて、24年度の施策に反映されるのか、それとも来年度に反映されるのか。</p>
教育企画総務課長	<p>○ やはり議会提出をしてという流れと予算編成の時期ということで、行政の場合はそこがなかなか難しいが、本来は今年度いかに生かせるかということの評価していくべきで、中間評価的な扱いで今ある事業をどうやっていくか、24年度の中間評価のようなものを今後検討していかないとなかなか難しいと思う。その当たり、前回示した事務事業シートを年度の途中で一度見直すということを経験していただく必要がある。</p>
委員長	<p>○ 今回は24年9月に市教委が報告書を出すことになるが、その時点での今後の課題というのは、24年度を含んでいるか。</p>
教育企画総務課長	<p>○ そのようになる。今後の予算時期にも近いので、この課題を解決するために、24年度の進捗を見ながら、予算を考えていくということになる。</p>
水野教育次長	<p>○ 補足になるが、例えば決算でも23年度決算は、24年10月ぐらいになる。審査をして、その結果を受けて25年度の予算要求に反映させていく。行政の場合、確定値がリアルタイムに出ないので、1年遅れにならざるを得ない。ただ、市民感覚で言えば、「24年度はどういうスタンスでやっていたのか」「全部1年遅れになるではないか」ということになるが、それを解消しようとする、民間企業のように四半期ごとに成果点検するという形で、3月が終わったら1週間ぐらいで債務の3か月評価をして、年間の評価も終わる、そういうような構造に変えない限りなかなか無理である。教育企画総務課長が中間的なものについて、検討する旨話したが、その姿勢は大事で検討していく必要があるが、どこまで近づけるかは非常に難しいところがあるということをご理解いただきたい。</p>
委員長	<p>○ 全庁的な構図ということか。</p>
水野教育次長	<p>○ そのとおりである。</p>
渡辺委員	<p>○ 長期欠席児童生徒への対応率が目標25%、現実が16.3%になっているが、4人に1人対応すれば良いというのは、それが目標というのは別途説明があったほうがよいのではないかと。どうして4分の1という目標なのか。</p>
教育支援担当課長	<p>○ 不登校になって、いろんな関係機関につながらない子どもたちがいる。そのつながりにくい子どもたちをなんとかつなぐということを示しているもの。様々な対応があるのでなかなか高い数字は難しい。</p>
渡辺委員	<p>○ この事業で対応するのが4人に1人で、他にも支援をしているということか。</p>
教育支援担当課長	<p>○ そうである。不登校にも時々学校に行ける子とか、ほとんど休み状態になっている子とか、いろんなタイプがいるので、その中で適応指導教室とか教育相談室につなげたいけどなかなかつながらないとか、そういうつなぐ必要のない子もいたりして、この数字を理解していただくのは難しい。</p>
渡辺委員	<p>○ その当たりの説明があったほうがよいと思う。</p>
橋本教育次長	<p>○ 教育相談室、適応指導教室に行ける子どもが25%ということ。</p>
委員長	<p>○ これは全体を通して言えることだが、専門的な評価だけだとどうしても本質的に迫れないところがある。19ページの「魅力ある教職員の確保と支援体制の充実」では、数値目標と達成状況だけでなく、実際にこういうことを実施して努力したという文言が入っているけれども、今の子どもたちも相談機関が増えれば、</p>

<p>委員長 委員長 塩田委員</p>	<p>パーセンテージが減ってもおかしくはない。いろんな所に散らばるわけだから。来た子どもの満足度とか、一年を超えて、学年を超えて長期に来ている子どもがどうなったとか、そういった中身に言及するような評価があってもよいのではないか。今後の課題として理解してもらったらよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 明らかに今これはおかしいというところはないか。 ○ 各課で気になっていて、確認して欲しいということはないか。 ○ 7ページから、①主な施策の概要、②主な事務事業と執行状況、③評価と今後の課題が記されているが、①・③の該当箇所にも事務事業名を加えてはどうか。現在の構成では、一つの事業の状況を見るときに、ページを前後繰らなければならず、見方としては面倒なところがある。事務事業シートはたたき台であろうが、一つの項目について、事業目的と目標と達成状況と課題が一つ一つで見えたら、その方が前後繰らなくていいと思う。これも来年度以降の課題としてもらいたい。
<p>委員長 委員長 全委員 委員長 委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他にないか。 ○ 第22号議案を原案どおり可決してよいか。 ○ <承認> ○ 第22号議案は原案どおり可決する。 ○ 以上で公開議案の審議はすべて終了する。

傍 聴 の 状 況		
報 一	道 般	1 名 0 名

平成24年8月 岡山市教育委員会定例会（非公開） 会議録

1 開催日	平成24年8月28日（火曜日）		
2 開会及び閉会	開会	14時54分	
	閉会	15時20分	
3 出席委員	委員長	柳原正文	
	委員	渡辺勝志	
	委員	塩田澄子	
	委員	曾田佳代子	
	委員（教育長）	山脇健	
4 会議出席者			
職名	氏名	職名	氏名
教育次長	水野博宣	教育次長	橋本拓治
統括審議監	鈴木康義	審議監（学校教育担当）	福島治子
審議監（生涯学習担当）	直本正明	教育企画総務課長	長瀬尚樹
指導課長	天野和弘	事務局（教育企画総務課課長補佐）	高木宏
5 議題及び結果			
第23号議案	平成25年度使用教科用図書の採択の変更について		原案可決
第24号議案	岡山市教育委員会教育長の任命について		原案可決